

施策番号	1903		
施策名	子どもを共に育む気運づくり		
概要	子どもの豊かな学びと育ちを各家庭はもとより、市民ぐるみ・地域ぐるみで支えるため、「子どもを共に育む京都市民憲章」が、大人の行動規範として定着することを目指す。		
担当局・部室	子ども若者はぐくみ局・はぐくみ創造推進室・子ども若者未来部	共管局・部室	
上位政策	19 生涯学習		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市未来こどもはぐくみプラン		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	子どもを共に育む親支援プログラム参加者数(人)	a	b	17,121	17,130	18,540	92.4%	b	1.00
2	子どもを共に育む京都市民憲章実践推進者表彰応募件数(件)	b	c	35	35	40	87.5%	c	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	b	客観指標総合評価				b	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度回答							
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価	
1	子どもを社会の宝として社会全体で育 む意識と行動が広がっている。	c	c	35	179	283	94	36	627	c	
				5.6%	28.5%	45.1%	15.0%	5.7%			
2	-	-	-							-	
3	-	-	-							-	
4	-	-	-							-	
5	-	-	-							-	
		c	c	市民生活実感調査総合評価							c

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

C	施策の目的がそこそこ達成されている						
	重み付け	☐ 客観指標	b	☒ 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 子どもを共に育む社会になっていると市民に実感されることにより初めて目的が達成される施策であり、市民の実感に重みを付ける方が適切であるため						平成30年度	C
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・家庭や地域の教育力が低下するとともに、子育ての不安や孤立感、児童虐待や児童ポルノ、インターネットの不適切利用等、子どもを取り巻く環境が依然として厳しい状況にあること等から、「子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が十分に広がっている」という市民実感が得られていないと考えられる。						平成29年度	B

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		令和元年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		平成30年度 決算額	令和元年度 予算額		
1	成人式	27,062	28,387	良い	子ども若者はぐくみ局
2	放課後まなび教室推進事業	195,557	204,774	良い	子ども若者はぐくみ局
3	京都市子育て支援総合センターこどもみらい館	226,880	224,689	良い	子ども若者はぐくみ局
4	家庭教育・子育て支援の充実	20,681	22,786	良い	子ども若者はぐくみ局
5	P T A研修・啓発	60,171	60,054	良い	教育委員会
6	家庭教育・子育て支援の充実	44,817	25,333	普通	教育委員会
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

※予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・子どもを共に育む京都市民憲章実践推進者表彰応募件数の増加に向け、各行政区等で憲章の実践につながる取組を行っている個人又は団体に周知を図り、本表彰への応募を積極的に働きかける。
- ・市民生活実感評価において、「どちらとも言えない」が約半数を占めている。子どもを社会全体で育むことを目的とした「子どもを共に育む京都市民憲章の実践の推進に関する条例」（平成23年4月施行）に基づく取組を一層推進し、市民憲章の周知を更に徹底するとともに、京都是ぐくみネットワークの活動を通じて各分野で実践行動を一層広げ、市民・地域ぐるみで子育てを支え合い、子どもたちを健やかで心豊かに育むまちづくりを進める。
- ・「子どもを共に育む親支援プログラム」及び「青少年のための親学習プログラム」を推進し、保護者同士が、子育てに必要な知識・技術や悩み・疑問などを共有することで、親自身が成長することを目指し、あわせてこれから親になる世代に対して、いのちの大切さ、親の役割及び家族の重要性をより理解することができるよう学びの機会の拡大を図る取組を進める。

施策名		1903	子どもを共に育む気運づくり			
指標名		子どもを共に育む親支援プログラム参加者数（人）				
担当課		育成推進課	連絡先		7 4 8－0 0 1 6	
1 指標の説明						
学校・幼稚園・保育所等の場で、地域の支援者の協力も得て、親同士が親としての心構えや必要な知識・技術を学び合い、子育ての不安や孤立感を軽減させる「親支援プログラム（ほっこり子育てひろば）」の参加者数						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
市民ぐるみで子どもたちを育むまちづくりに向けて、地域で子育てを学びあう場への親の参加状況を示す指標			出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値 平成29年度	最新数値 平成30年度	推移	目標値		
				数値	根拠	
数値	17,121	17,130	9人増	18,540	令和2年度の目標達成のために当年度に達成すべき数値（毎年度約730人増）	
	達成度				92.4%	
	全国順位	中長期目標				
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		20,000	令和2年度	85.7%	80,000（京都市内の0歳～15歳の子どもがいる想定世帯）×0.25（受講回数/年※） ※ 子どもが0歳から15歳までの16年中、計4回受講すると想定（妊娠期・乳幼児期・小学生・中学生の各1回）	
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果	
最新数値の目標値に対する達成度が a：100%以上 b：80%以上～100%未満 c：60%以上～80%未満 d：40%以上～60%未満 e：40%未満			100%以上をa，以下20%刻みで基準を設定した。		平成29	
					平成30	
					令和元	
					a	
					b	
					b	

指標名		子どもを共に育む京都市民憲章実践推進者表彰応募件数（件）								
担当課		はぐくみ創造推進室		連絡先		2 5 1－0 4 5 7				
1 指標の説明										
「子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都はぐくみ憲章）」の行動の輪を広げるため、同憲章の実践活動としてモデルとなる活動やユニークな活動を表彰する「実践推進者表彰」への応募件数（自薦，他薦を含む。）										
2 指標の意味				3 算出方法・出典等						
「京都はぐくみ憲章」の市民への普及状況及び実践活動の広がりを示す指標				出典：事業担当課調べ						
4 数値										
	前回数値		最新数値		推移	目標値				
	平成29年度		平成30年度			数値	根拠	達成度		
数値	35		35		増減なし	40	過去5年間の最高値（平成27年度）以上	87.5%		
	全国順位	中長期目標				備考	応募件数 H25年度：35 H26年度：29 H27年度：40 H28年度：36 H29年度：35			
		数値	目標年次	達成度	根拠					
数値										
5 評価基準				6 基準説明				7 評価結果		
最新数値が a：過去最高値以上 b：過去最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上 c：上中間値未満～平均値以上 d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上 e：下中間値未満				過去5年間の数値を基に、過去5年間の最高値以上をa，平均値以上をcとし、最低値も含めた按分で基準を設定した。 最高値：40（平成27年度） 平均値：35 最低値：29（平成26年度）				平成29	平成30	令和元
								b	c	c